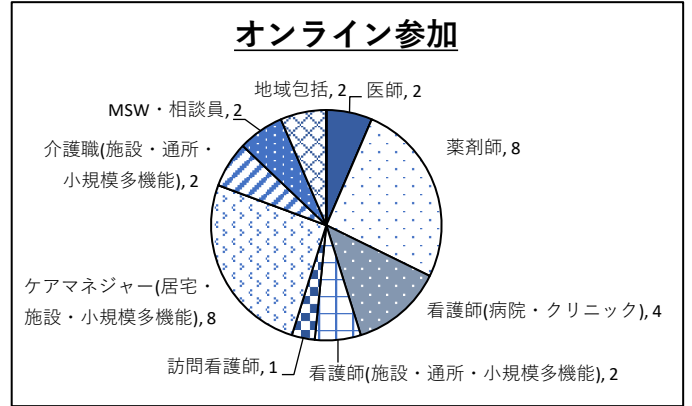
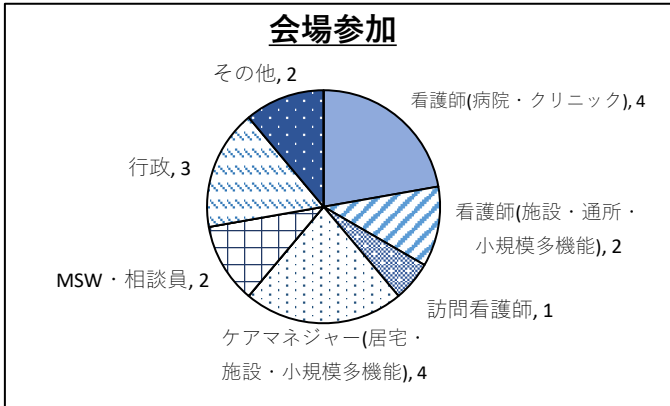


日時： 令和5年2月28日(火) 19時～
 回答率： 会場参加 18/21人
 オンライン参加 31/51人

1. 職種について



2. 「川薩地域入退院調整ルール運用状況について」の感想等ご意見がありましたら、お聞かせください。

会場	<ul style="list-style-type: none"> ・入退院調整ルールについて再確認することができました。院内で、このルールが徹底されていないところがあったので、今後、徹底していきたいと思いました。ケアマネからもらった情報を院内で各々の職種が情報共有し、退院支援に活用していきたいと思います。 ・在宅に戻る患者さんの為にも、入退院調整ルールを活用することが大切だと思いました。 ・サービス利用前の担会で、事前にいただいた情報と状態が全く違うということが時々あり、困っています。ケアマネと病院との連携や退院前のカンファレンス等ができていないと感じます。ケアマネによってそのあたりの差も感じます。ケアマネの質を上げるようにしてほしい。 ・自分たちが利用しなければいけない時に、入退院調整ルールが周知されるように協力していければと思いました。毎年、周知されるように呼びかけをしえほしいと考えます。 ・現在、施設でケアマネをしています。入所の際に必要な情報は、自ら収集しています。病院側は良く教えてくださいます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・入退院時書面にて情報提供、共有をしています。退院時の情報について、看護サマリーはいただけることが多いですが、それ以外の「栄養・食事」、「薬剤情報」、「リハビリ情報」等まで網羅されることは少ないようです。情報の内容がもう少し幅広く、統一されるとありがたいです。
	<ul style="list-style-type: none"> ・連携シートも大切ですが、コロナも収まりつつあるので、家屋調査やカンファレンスの参加を増やせるようにしたい。実際に目にした方がわかりやすいので。
	<ul style="list-style-type: none"> ・継続の大切さ、連携の充実の柱になっていると思いました。
	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の業務で忙しい中、提供いただける情報は非常にありがたいのですが、頂ける件数がかなり少ないのが実情です。医療機関側としては、ケアマネさん方にも積極的に動かれる方とそうでない方、温度差が大きいと感じています。お互いに患者さんを支えることができればと考えています。困る方がいなくなればと思っています。
	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者への周知の必要性を感じた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・入退院調整ルール、退院時、スムーズに在宅に施設にいけるよう情報共有し、多職種が共有できるようルールは大切で、今後も周知が必要と感じた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師育成の場で、このような取り組みがなされていることについては伝えていきたいです。
	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、連携ツールとしてICTの活用が増えてくると思われる。地域住民(患者・利用者)にとって最善の生活の質を維持、提供できるよう連携していきたい。
	オンライン
<ul style="list-style-type: none"> ・入退院も毎月のようにあり、支援していますが、入院されましたと連絡がなければ、ケアマネから発信しやすいのですが、遠慮してしまいがちで遅くなってしまうこともあります。利用者様のことを考えると早目に連携図りたいと思います。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・入院される方はご高齢で、入院中ADL低下、認知症の悪化で自宅への退院が難しいケースが多くなり、これから退院支援に対し色々なルール、情報を検討していきたいと考えている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「入院時情報提供シート」で在宅時の状況がわかり、大変助かっています。退院時には、情報提供書や看護サマリー、リハサマリーなど必要時渡していますが、「退院時患者情報提供書」まで手がまわらないのが現状です。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・現在もケアマネ、施設の方と、情報について利用させていただいていますが、今回の研修を受け、更に活用していきたいと思っています。 	

オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ・あちこちの病院と連携はありますが、退院時情報提供書はもらったことがありません。看護サマリーのみです。 ・以前からするとルールとしては動いていると思いますが、先日急性期の病院に入院された際に情報提供をし、回復期の病院に転院されその病院から情報提供の依頼があり、認知症の方で入院継続に支障がないかなど聞かれました。急性期病院から回復期の病院に移る際に同じ情報提供書を急性期病院により提供もあれば良いかと思います。 ・退院前カンファレンスがコロナ禍であまりできないこともあるのか、医療機関と情報共有ができていていると思っているケアマネが「非常にそう思う」が少ないのにびっくりしました。 ・情報共有しないケアマネがいることに驚きました。 ・今日の講演で退院支援をするにあたって、入院してから早い段階で情報共有をすることがいかに大切かを認識しました。 ・患者さんのためにこれからももっと活用されるように願っています。調剤薬局薬剤師としてなかなか関わる機会がありませんが、貴重な発表を聞かせてもらってよかったです。 ・自分の感覚としては、ほぼ周知されて実用化されていると思っていましたが、アンケート結果をみてまだ理解されていない方が3割弱もいらっしゃるのかと思いました。 ・「多職種連携」とよく言われるのが、その大きな部分を担う部分を知ることができた。医療機関とケアマネとの連携はその後の介護サービスに大きく関わる部分だと感じる。介護サービスにつながった際の情報の共有について考えられたらと感じた。 ・日頃の勤務の中でも入退院、入退居の情報提供書、サマリーなどを拝見する機会があります。なかなか、サービス開始前にお会いするということができませんが、その利用者様のどのような課題があり、現状でいらっしゃるのか、心構えができることにつながっています。私たち、介護職が携わる上でなるべく統一したケアを目指さないといけません。関係機関がしっかりと連携がとれてつながっていくことで、利用者様ご本人がスムーズに、何より安心に向かっていく事ができるのだと感じます。当たり前のように情報がきて、目を通していただくだけでなく、そこに尽力される各所の皆さんがいてくださることに感謝し、より一層自分はそのを拾いながら日々の介護業務につなげていきたいです。 ・患者様の生活を、入退院を通して連携して支えていくことは大変喜ばしいことです。今後も、推進していけたらと思います。 ・利用していない医療機関や、ケアマネへの周知を！！ ・webでの参加ができる環境作りをしていただければありがたい。また、開催時間などもお願いいたします。 ・既知のもので今後も運用していきます。 ・ルールの周知のためにも、このような研修の機会に都度ルールの資料添付をされるのもいいかと感じました。
-------	--

3. 「ヤングケアラーの調査報告」の感想等ご意見がありましたら、お聞かせください。

会場	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラーは、TVの中でしか聞いたことはなかったが、結構身近にもいるものだと思います。新制度の、子育て支援ヘルパーも期待したいものです。 ・TV等で見ることはあったが、薩摩川内市等身近な所でもいるのだなということに驚きました。昔、昭和の時代なら家の手伝いですまされたことが、今は同じことでも違うんだと思い、驚いています。 ・子供のクラスにも、数人学校を欠席している子がいます。ヤングケアラーと直結は出来ないと思いますが、その子たちが気になりました。 ・家の手伝い感覚で当たり前に行っている事例が多いのではないかと思います。子供がそれを苦痛に思っているのであれば、それは過度なものになるのかなと思います。実際、そういう事例に会ったことはないですが、しっかり今日知り得たことを他のスタッフにも伝達したいと思います。 ・ヤングケアラーと思われる家庭に気づいたら、まず報告をしていこうと考えました。子供たちの権利を守っていきけるような薩摩川内市になるといいと思います。 ・具体的に教えていただき、分かりやすかったです。 ・新しい言葉の勉強ができました。ありがとうございました。 ・業務にて、ヤングケアラーではないか？という事例があります。慎重に対応を考えていくべき課題と考えています。連携のしかたなどもまた教えていただけたらと思います。 ・何が問題なのかと考えた方が良くと思います。家のことを手伝ってきたり、兄弟の世話をすることは生育に悪いことばかりではない。時間があっても勉強や睡眠が増えるとは限らない。 ・認識のない子供たちがいることが理解でき、関係機関につなげていく必要性を感じました。 ・声なき声を少しでも拾えるよう、アンテナを張っていければと思います。 ・ヤングケアラーの実情を知ることができた。 ・「ヤングケアラー」という言葉は、とてもデリケートな問題であると感じた。子供、子育て支援として関わっていくことが大切と感じた。 ・各家庭の事情によっては家の手伝いをしないといけないところもあるので、判断が難しいと思った。 ・仕事をしていると、子供に手伝いをさせている現状もあると考えさせられました。 ・アウトリーチ活動の難しさを感じるため、学校等との連携が重要だと改めて確認できました。
----	---

会場	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヤングケアラー」という言葉は、刺激的であるということを知った。学校の間でもそんな子供がいるかもしれないという考えは必要なんだなと思いました。 ・介入してきた中で、該当するケースもあったが、その児の担っているケアに対応できる体制作りが重要である。各々の立場で、ケアを必要としているケースの存在を確認する姿勢で関わり、連携したい。 ・子供の権利を守ることができる地域作りを共に頑張りましょう。
オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な支援策と関係機関との連携の回り方を知りたかったです。 ・これまで家庭の中で、下の子をみたり、高齢者の世話をするのが当たり前のように思ってきました。家業と一緒にしたりと、自分では嫌とも思わずに我慢して生きてきたと思います。子供の権利を守るためにも、視点、観点を広げていこうと思いました。児童や女性の事も相談先がわかり安心しました。 ・ヤングケアラーという言葉を目にしたことはあったが、内容についてはあまり理解できていなかった。これから、少しずつ勉強していきたいと思う。 ・「ヤングケアラー」という言葉自体は、なんとなく理解していましたが、非常にデリケートな言葉なんだという事を改めて感じました。そのような場面に気付いた時に、相談できる窓口がわかり良かったです。 ・ヤングケアラーの情報、通報に協力していくことの重要性を確認しました。 ・最近聞く言葉と思っていました。身近にいるのかもしれませんが。相談について、注意しながら観察をし、対応できたらと思いました。 ・相談したことがないという返答が多いことにびっくりした。周りが気付いて声かけすることが大切と感じました。 ・大変関心を持って視聴しました。中島様が何度も当事者にヤングケアラーと言わないことへの注意などデリケートなことなのだと感じました。 ・人数的にいるんだなと思っています。 ・なんとか相談できる、大事にならない場所が必要だと感じます。 ・ヤングケアラーという言葉が当事者、家族に言っはいけないとお話でした。十分に注意したいと思います。 ・ヤングケアラーという言葉は報道で聞いたことあるが遠い事のように思っていた。薩摩川内市での実態を聞いて考えさせられるものがあつた。 ・非常にデリケートな内容であると思いますが、そのようなケースに遭遇した場合の手立てを知ることが出来て良かったと思います。 ・高校生の回答が多ければ更によかったです。 ・今の若い世代について改めて考えさせられた。 ・「ヤングケアラー」についてYouTube等で発信しているのを目にしたこともあります。子を持つ親としてイメージしてみると、家族の誰かがケアが必要な状態になったとして「家族で乗り切ろうね!」「頑張ろうね!」と声をかけあってしまうだろうと思います。(自分が)ケアの状況、度合いによって学業などに影響する可能性もあるのですが…。やはり若世代の誰もが社会生活に制限がなく過ごせることが望ましいと考えます。「悩みだと感じていない」「話すことではない」胸が痛いですが、今、少なくとも「つらい」「どうしたらいいのかわからない」と考えている人たちだけでもサインを出せるように制度、整備がすすんでほしいと思います。大変勉強になりました。ありがとうございました。 ・それぞれの考えがあるので、難しい問題だなあと感じました。 ・ヤングケアラーとは？が、はっきりと理解出来ないうです。家の手伝いを越え、過度な家事の担い手として扱われる。！?? ・「ヤングケアラー」のネーミングを変更したらいい。(例：ヤング・ファイター、ヤング・サポーター、ヤング・ホームヘルパー、ヤング・ファミリーサポート) ・学校薬剤師として小中学校、高校にもなにか役立てる資料やツールがあれば連携していきたい。あと、協議会に薬剤師会が参加していなかったのは残念でした。 ・今後もかかわりを持っていけるといいと思います。未来を担う子供たちです。 ・薩摩川内市としてヤングケアラーをどのように捉え支援していくのか今後の展開をまた知る機会があればと思います。 ・相手の立場で考えることも必要であると思います。

4. 今後の研修会で聴いてみたい・学びたい内容があればお聞かせください。

会場	<ul style="list-style-type: none"> ・薩摩川内市の取り組みや実態が知れて良かったです。また、定期的にこのような報告会があると良いと思います。 ・薩摩川内市独自のいろいろな取り組みを知りたいです。 ・要介護者の担当になったとき、ヤングケアラーがいた場合の連携について具体的に学びたいです。(実例含め) ・高齢者に対する虐待について(実情等) ・精神疾患の患者さんの地域での取り組み(病院でなく地域で暮らしていくために)
オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ・身元保証問題 ・入退院支援の流れ等についてどのように実施しているのか、また、どのように連携をとっているのか ・ヤングケアラーの方への対応について ・原子力発電に関する業務継続計画(BCP)について ・災害時の情報連携。行政・医療機関・在宅支援に関わる組織作りの検討。 ・身寄りのない人の支援について市の動き ・特定妊婦などの存在や状況、支援などについて知りたいです。